

# あいち生物多様性保全活動担い手養成講座

## 実践講座・湿地編①:保全活動体験とフィールドの『健康診断』

### ふりかえりレポート

日時:令和6年9月29日(日)9時30分~16時00分

場所:西陵地域交流センター/視察先:東谷山湿地群

実践講座・湿地編①では、「保全活動体験とフィールドの『健康診断』」と題し、基礎講座の内容を踏まえ、実際に保全活動を行っているフィールドで活動団体の方に協力いただきながら、保全作業体験と基礎調査体験を行いました。

#### 1. 活動報告『東谷山湿地群 保全活動の最前線』

講師:飯尾 俊介 会長〈東谷山湿地群保全の会〉



東谷山湿地群において保全活動を実施されている東谷山湿地群保全の会 飯尾俊介会長より、『東谷山湿地群 保全活動の最前線』と題して、東谷山湿地群を含む東海地方の湿地の成因や会の活動についてお話いただきました。

- ・ 東谷山湿地群を含む東海地方の丘陵地には、陶土層の上に砂礫層が堆積している東海層群と呼ばれる地層群が広がっている。
- ・ 陶土層は良質な焼き物原料となったため、焼き物生産を目的とした陶土の採取や燃料用の草木の極端な収奪が行われてきた。
- ・ 丘陵地に浸透した雨水は陶土層を透過できず、谷や斜面からの湧水として地表に現れる。草木の極端な収奪により植生の遷移が妨げられたことから、水がしみ出す場所には貧栄養の湿地が形成され、地域独特の植物(東海丘陵要素植物群)の生育の場となった。
- ・ 草木が燃料として使用されなくなったことで湿地やその周囲が森に覆われ、多くの湿地が消失してしまった。
- ・ 東谷山湿地群保全の会では、東海丘陵要素植物群が生育する環境を維持することを目的として、湿地に侵入してきた低木の伐採やヌマガヤなどの背の高い草本類の刈り取りを行っ

ている。

- ・ 除去した木や草は、湿地から離れた場所や湿地の下流側に運び出し、湿地に栄養分が流れ込まないようにしている。
- ・ 湿地性の植物が生育できる環境を維持するため、特定の種だけを守るのではなく「生態系を守る」ことを重視している。

## 2. 東谷山湿地群 Y湿地での保全活動体験(草刈り・間伐)

草刈りはノコギリ鎌を使用し、ヌマガヤやネザサなどの背が高く、東海丘陵要素植物を含む小型の湿地性植物への日照を妨げてしまう植物を対象に行いました。



草刈りを行った場所では、一面にシラタマホシクサが咲いていました。保全の会の皆さまが間伐・草刈りを行い、明るい環境を維持したことで再生したのだと飯尾会長より伺いました。

間伐は、保全の会の皆さまに積極的に伐るべき木(ヒサカキ、ソヨゴ、クロバイ等の常緑樹)を教えていただきながら、手ノコを使って行いました。伐った木は枝を落としたりさらに短く切り分けてから、湿地の外へ運び出しました。一連の作業には人手が必要かつ危険も伴うので、声の掛け合いやチームワークも必要ということが分かりました。



Y湿地での保全活動は、月に1度実施されているとのことでした。草刈りも間伐も労力の必要な作業ですが、「こんな植物があった」と楽しみながら無理のない範囲で活動をしているということも伺いました。

### 3. 東谷山湿地群 1湿地にて基礎調査体験

高額な機材が無くとも実施可能な市民参加型の基礎調査(市民調査)について学んでいたため、5種類の基礎調査(①360度写真の撮影、②概況写真の記録、③注目種のマーキング、④地形に関する特記事項のマーキング、⑤簡易測量)体験を行いました。

#### ①360度写真の撮影

湿地全体での開空度の測定を目的として、湿地内におよそ5m間隔で設置したポイントにおいて、全天球カメラを使用し360度写真を撮影しました。

#### ②概況写真の記録

360度写真を撮影したポイントと同じ地点において、概況写真を撮影しました。過去にも概況写真を撮影していたため、当時と同じ方向で撮影しました。

#### ③注目種のマーキング

飯尾会長に注目種を紹介いただきながら、マジックで種名を記載したピンクテープを用いてマーキングしました。

#### ④地形に関する特記事項のマーキング

愛知教育大学准教授 富田 啓介先生に地理的な特徴について解説いただきながら、ピンクテープを用いて湧水点をマーキングしました。

#### ⑤簡易測量

③、④の調査でマーキングした地点において、スマートフォン及び専用の受信機を測量機器とした高精度測位サービスによる誤差数センチ単位の測量を行いました。



その他の市民調査手法として、以下の調査手法についても紹介しました。

#### ①ライトトラップ

夜間に白熱電球等を点灯し、光に集まる昆虫を採集する方法です。カブトムシやクワガタムシも集まるため、子ども・親子参加型イベントとして調査を行うこともできます。

#### ②ピットフォールトラップ・バイトトラップ

地面にプラコップ等を埋めて落とし穴(ピットフォール)とし、地表を歩く昆虫を採集する方法です。魚肉ソーセージ等の餌(バイト)を入れることもあります。

### ③自動撮影カメラ

動物の熱を感知して静止画や動画を自動で撮影してくれるカメラを用いて哺乳類を撮影します。一度設置すれば長期間にわたって撮影し続けてくれるので、頻繁に現場に行かなくても効率的に哺乳類の調査ができます。

### ④簡易・自動記録気温測定

配線不要なボタン電池型のロガーを使うことで、場所を選ばず気温の測定ができます。専用の解析ソフトを使用すると、簡単にデータを分析できます。

基礎調査体験を行った1湿地は昨年度の担い手養成講座でも保全計画の検討を行った場所であったため、飯尾会長、保全の会 小川様より、昨年度の講座以降の作業内容と経過について説明いただきました。

- ・ 昨年度の講座で検討した内容を踏まえて間伐作業を行ったため、間伐を実施した箇所は林床にまで日光が届くようになった。
- ・ 林床が明るくなったことによりササが繁茂したため、ササ刈り等の作業を今後も行う必要がある。



## 4. 富田先生のまとめ

- ・ スマートフォンなどを活用して、以前より簡単に市民調査を行うことができるようになった。
- ・ 市民調査によって、保全活動を進めていく上での課題や成果を「見える化」することで、より具体的に把握、共有し、全員で同じゴールを目指すイメージをもつことができる。